

平成24年度第4回宮前区区民会議
議事録

平成24年度 第4回 宮前区区民会議

1 日 時 平成25年2月13日（水）午後6時15分

2 場 所 宮前区役所 大会議室

3 出席者

(1)委 員 直本委員長、宮崎副委員長、黒沢副委員長、平井委員、大村委員、森山委員、田浪委員、豊島委員、大槻委員、白井委員、芒崎委員、太田委員、岡委員、佐々木委員、山下委員、藤田委員、佐藤委員（欠席：浦野委員、福田委員、本郷委員）

(2)参 与 竹田参与、持田参与

(3)事務局 日下部副区長、有山向丘出張所長、益子保健福祉センター所長、企画課（課長、係長2名、職員2名）

4 議 事

①審議経過報告について

②部会審議内容に関して質疑応答・意見交換

③(仮称)区民会議フォーラムについて

5 傍聴者数 2人

午後6時15分開会

司会（日下部） 皆さん、こんばんは。定刻となりましたので、ただいまから区民会議を開催させていただきたいと思います。

進行を務めます宮前区役所副区長の日下部でございます。よろしくお願ひいたします。

本日は区長の石澤は事情によりまして欠席をさせていただいております。大変申しわけございませんが、御了承のほどよろしくお願ひしたいと思ひます。

この区民会議も昨年の5月に発足してから、もう今年度最後の全体会議でございます。今日はいろいろと御報告ですとかフォーラムの件について御討議いただくようでございますが、よろしくお願ひいたしたいと思ひます。

それでは、会議に先立ちまして事務連絡をさせていただきます。本日、会議開催に当たりまして、この会議は川崎市審議会等の会議の公開に関する条例に基づき公開とさせていただきます。したがって、傍聴、報道機関等の取材許可をいたしてございますので、御了承いただきたいと思います。

また、会議録の作成に当たりましては速記者に同席をしていただいております。よろしくお願ひいたします。

そして、本日発言をいただきました方々につきましては、後日議事録の確認をお願ひしたいと思います。確認後の議事録につきましては区役所ホームページに掲載させ

ていただきます。

また、傍聴の方々につきましては、入り口で配付させていただきました遵守事項をお守りいただきまして、本日の会議に関するアンケートへの御回答を御協力いただきたいと思っております。

次に、本日の委員、参与の出欠状況でございます。区民会議委員につきましては、福田委員、本郷委員が御欠席でございます。参与につきましては、今現在お見えになってございませんけれども、竹田議員、持田議員が遅れて入ると。なお、石川議員、織田議員、土居議員につきましては欠席ということで事前に連絡をいただいております。

続きまして、本日、皆様のお手元に配付してございます資料の確認でございます。

まず、1ページ、本日の会議次第でございます。

めくって2ページが座席表になっております。

3ページ、環境人部会第3・4回審議経過報告でございます。

4ページから8ページまでが環境人部会の摘録でございます。

9ページ、10ページが環境人部会の具体案宿題シートでございます。

11ページに参りまして、(仮称)地域・世代間交流部会第3・4回審議経過報告でございます。

12ページから15ページまでが(仮称)地域・世代間交流部会の摘録となっております。

16ページから20ページが宮前区内小学校アンケート結果でございます。

21ページから27ページが区民会議フォーラムの企画書でございます。

28、29ページ、ウォークラリー参加者募集チラシの案でございます。

そして、30、31ページがコース図。これはA3判で折り込みになってございます。

以上が本日の会議資料でございますが、落丁等はございますでしょうか。大丈夫でしょうか。

2 議 事

司会（日下部） それでは、ただいまから第4期宮前区区民会議全体会議を開催させていただきます。これからの進行につきましては委員長にお願いをいたします。それでは、直本委員長、よろしくお願ひいたします。

直本委員長 委員長の直本です。こんばんは。いよいよ区民会議ももう第4回目ということで、前回の第3回目の区民会議が11月20日で行われました。そのときにもいろいろな課題が多く提案されまして、その絞り込みを各部会で行おうということで、環境人部会、地域・世代間交流部会を含めてそれぞれ2回の部会を重ねてまいりました。

これで方向づけができたかどうかというのはまだまだ疑問が多いところですが、お互いにそれぞれの部会がどのようなことの議論を重ねて、お互いにどのような形で協力し合えるかといったような観点から、それぞれの部会長さんに審議経過の御説明をお願いしたいと思っております。その上で、またそれぞれの部会についての御意見、御提案等がございましたら、各委員さんに御発言をお願いしたいというふうに予定しております。

それでは、最初に佐々木部会長から説明その他をお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

佐々木委員 環境人部会の佐々木です。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、私ども、環境人部会という名称ですけれども、環境を活かした人づくり部会という名称を略して、愛称として環境人部会と呼ばせていただいております。実際にどんなことを話し合っている部会かといいますと、環境を活かした人づくりということですので、最終的な目標は人づくり、そのために目的意識を共有できるもの、そして我々市民が楽しく参加できるようなイベント等を通じて、最終的には人づくりという目的を果たしていきたいと思っております。

実際に環境人の環境といった場合に、大きく私どもは2つテーマを挙げております。まず1つは自然環境ということで花と緑を生かした環境、そしてもう1つは、今度は人に関連した健康、そしてスポーツ。スポーツといっても、いわゆるアスリートが行うようなスポーツではなくて、あくまでも健康づくり、体力づくりを目的にしたスポーツ。そういう2つの環境をテーマに話し合いをこれまで行ってきました。

今回は環境人部会の中の第3回、第4回の審議経過の報告ですが、その前に、前回までどのようなことをやったかということ若干御説明させていただきたいと思えます。

まず、大きなこととしましては、第2回の環境人部会では現地見学会を去年の11月14日に行いました。これは約10名ほどの部会のメンバーが集まりまして、この区役所からマイクロバスに乗りまして、宮前区の中のそれぞれのいろいろなものを見ていく。この3ページの資料の上からちょっと下ぐらいですかね。「審議の流れ」というところの囲みの中にありますような、例えば緑の里山の会というボランティア団体さんが非常に熱心にやられている宮崎第四公園、そして、コミュニティガーデン実行委員会の方がいろいろ御尽力くださっている宮崎台コミュニティガーデンという非常にきれいな花壇、そして、宮崎台の駅前の桜並木や、あるいは、バスに乗りながらでしたが東名インターチェンジの前のきれいな花壇を見ながら、今度は生田緑地の南側、初山地区にございます通称とんもり谷戸、これは、とんもり谷戸の自然を守る会というボランティア団体さんがいろいろ御尽力なさっている場所、そして、最後に平瀬川流域まちづくり協議会という団体さんが活動されている平瀬川。実は、約10年以上前

にはたくさんごみがあったような川。ところが、今はアユが泳ぐような非常にきれいな川に変わっていていると。なぜそんなことができたかという活動内容をいろいろ御説明いただきながら現地見学会を行ってまいりました。

これが前回、第2回の内容でしたが、それを受けまして第3回の環境人部会、12月6日に行った第3回では、まず、私ども委員が見学会についての感想をまずそれぞれ述べ合いました。資料の3ページの①にあるようないろいろな意見がございました。例えばですが、宮前区に結構長い間住んでいる委員の方が多いんですが、意外と知らないところが多かった。あるいは、非常にすばらしいところが多いんですが、アクセスに若干問題があるなど。そして、今回の見学会は非常に熱心に活動がされているところを見た、いいところを見たという感じですので、今後この活動をどうやってほかの地域に広げていくかということが重要ではないか。そんなような意見がいろいろ出しました。

その第3回部会の中で、今後、宮前区全体にこのようなすばらしい環境をどうやって広げていったらいいかというために、まず、宮前区の環境、環境と言っていますが、例えば自然の環境、公園、緑地、並木、花壇は現実どうなっているのかということをもみんなで情報共有をもう一度してみようではないかということを受けまして、次の第4回部会では実際に地図を使って、委員みんなで囲みながら、印をつけていきました。

きょうここに、ちょっと見えますかね。地図が張ってありますが、こういう大きな地図を目の前に置きまして、11人の部会の委員のメンバーでそれぞれ印をつけていきました。視覚的にわかりやすいように色分けをしております。例えばなんですけれども、この緑のところは緑地をあらわしております。ピンクは公園なんですね。公園というのは、もっと実はたくさんあるんですけれども、全ての公園に印をつけると逆にわかりづらくなるということで、場所を3000平方メートル以上の公園に絞って、いろいろ印をつけてみました。そして、黄色の部分は花壇ですね。花壇が非常にきれいに整備されているところを黄色の印でプロットしております。そして、オレンジは、これはシールではないんですね。これは道にオレンジの色をつけています。後ろからだ若干見づらいかもしれませんが、オレンジの部分にはきれいな街路樹があるところにシールをつけていっています。そういったことで、視覚的に我々委員が情報を共有できるということを実践してまいりました。

ぱっと見た感じ、やはりちょっと偏りがあるかなど。地域によってこういうシールが多いところ、あるいは少ないところが若干見られました。それは何でだろうということと、それと、こういうものをどうやってふやしていくかとか、きれいにしていくかということは今後話し合っていくわけですが、大きな要因としては、まず、あくまでも都市型の緑が中心になっていると。それと、区画整理がされていない場所につい

ては、なかなかこういう大きなものがつくりづらい。あるいは、個人所有のものについては私どもで情報を持ち合わせておりませんので、そういうものは今回のテーマから外れているという、いろいろな意見が上がりました。

今後、我々環境人部会としては、昨年11月に行ったようなこういう現地見学会や、今回、ワークショップというんですかね。こういう地図を使って視覚的に情報の共有化を図ってきた。いよいよこれから私どもは具体的にどのような案を持って、そしてどのような実行をしていくかということをお話し合っていきます。

資料の中の9ページを見ていただきますと、私ども環境人部会の中では各委員に宿題が出ております。これは記入例ということで、今回私どもの委員が書いたものではないのですが、このような形で各委員が自分の日ごろ考えているような問題、それを解決するにはどういう案があるか、そういうものを具体的にこういうシートに落とし込んで、それを今後話し合っていく予定になっております。

1枚めくっていただいて、10ページ目。これがそのシートなんですけど、これを来月、3月1日に第5回部会があるんですが、その中で話し合っていく予定になってございます。

以上が私ども環境人部会のこれまでの活動内容、経過報告でございます。

直本委員長 ありがとうございます。

質疑や追加説明は後回しにいたしまして、続いて、先に地域・世代間交流部会の報告を大槻委員からお願いしたいと思います。

大槻委員 それでは、（仮称）地域・世代間交流部会について御報告いたします。

課題として、やはり宮前区における人づくりというか、あるいは教育の宮前区というようなこともいろいろ言われております中で、やはりこういうふうな家庭教育とか地域教育とか世代間の交流なんかも含めて、いかにそういうものを進めていけるかという観点から、いろいろ討議を進めてまいりました。

11ページにございますけれども、そういう中で、学校支援センターのヒアリングとか、あるいは区内の小学校へのアンケートの実施等も含めて、いろいろ第3回、第4回の審議をしてきたわけでありまして。

この11ページのところにございますけれども、第3回のところでは学校あるいは地域の連携の現況についていろいろ討議したわけがございます。そこにありますように、授業、課外活動、イベント等の多様な活動があるわけですが、個人のつながりをお願いしているところが多いとか、あるいは組織間の連携がいろいろ不足しているのではないか、というようなことが討議されたわけでありまして。

それから、13ページの上のほうに学校支援センターの課題という囲いがございまして、これは、こども支援室の学校・地域連携支援の山田課長さんに御出席いただいて、いろいろ討議をしたわけでありまして、その中で討議されたのは、や

はり区の中に1つの支援センターで全てのニーズを抱え込むというのは非常に難しいのではないかなというようにこととか、あるいは、学校支援センターではボランティア活動をする人々を募っているわけでありませけれども、この広報がまだ弱いのではないのだろうかとか、あるいは、コーディネーター機能の問題でニーズと地区人材とのマッチングの問題等、いろいろ課題ではないかというようにことが挙げられたわけでありませ。

13ページのその次の枠のところ小学校の課題がございませけれども、学校アンケート結果からもいろいろ出てくるわけですが、やはり教員の負担が非常に重いと。それを軽減していく必要があるのではないかと、どういふにそれをやっていったらいいかというようにこととか、あるいは仕組みづくり、地域、学校等、ボランティア、あるいはPTAやOB等とのつながりの仕組みをどうしていくかというようにことも、いろいろ課題ということになっておりませ。

それから、地域の1つの集まりの場として各小学校を開放できないのだろうかという話もあったわけでありませけれども、責任の問題をどういふに決するか。安全の問題、何か事故が起きたときの問題とか、そういうようなところが非常に課題であるというふうなことが出ていませ。

アンケートのことが16ページからいろいろ書いてありませ。アンケートは16ページ下のほうにありませように、設問1は事業内での地域人材の活用の問題、設問2が授業外での人材の活用の問題、設問3は学校から地域への広報活動の実施状況、設問4が課題と感じるものを選択してもらおうという内容でございませ。

17ページのところに設問1についていろいろあるわけでありませけれども、これは①以降あるように、いろいろな催しが行われていると次のページにもわたっておりませ。それから、19ページに授業外における人材活動としてバザー、フェスティバルから始まって10項目ぐらい挙がりませ。

20ページ下の設問4に課題として挙げていただいているところが非常に重要なことと思っておりますけれども、この20ページのところで、やはり課題に対して回答の多いところ、財源の問題、時間の不足の問題、教職員の負担の問題、諸手続の問題。この問題はちょっとやそつとで解決する話ではないのでありませけれども、そうすると、その次の5番目のあたりから地域資源・人材の情報の不足の問題、児童の安全の問題、施設管理責任の問題、そういうようなところからいろいろヒントが得られるような内容ではないかなと思っております。

11ページにまた戻っていただきませ、そういうことで第3回ではいろいろ議論が行われたわけですがけれども、第4回では地域世代間交流に向けたポイントの課題の整理ということで行われたわけでありませ。やはり心の教育ということが非常にキーになるのではないかなというようにこと。あるいは、分野や領域を超えた連携方法の模

索の問題。それから、コーディネーターの育成の問題。それから、先ほども出てきているような新たな人材獲得の問題。そういうようなところがこれから審議していく上において非常に重要な内容かなと考えております。こういうような流れの中で、もう1回ぐらい部会を開きまして、部会の名称も明確にし、内容も明らかにしていきたいということでございます。

直本委員長 ありがとうございます。今、それぞれの部会長さんから各2回にわたる部会の審議状況について説明をしていただきました。

私も両方の部会に所属してお聞きしているんですけども、意見の絞り込み、課題の絞り込みという方向になかなか向いてこないなと思いながら、今のお話をお聞きしておりますと、やはり環境人部会のほうでは花、緑、スポーツということを取り上げるんだけど、人づくりが目的なんですよということの強調もなされておりました。また、世代間交流のほうでは学校を中心としての世代間交流、地域間交流といったようなことも加わって、いろいろな課題ですとかアンケートの調査結果とか、そういったものを踏まえての議論がなされているというふうなことをお聞きいたしました。

ただ、まだお互いによくわからないなという感じを持たれているのではないかなと思いますので、各副委員長さんに、それぞれ何か補足説明等がありましたらお願いしたいと思いますが。

黒沢さんのほうからよろしいですか。

黒沢副委員長 6ページにございますが、この大きな地図を使ったワークショップの中の1つの補助材料、事例といたしまして、各中学校区ごとの、そこに何があるかということ、まず調べることもいいのではないかと思います。実はもう何年か前に私も調査した資料がございますので、ちょっとごらんに入れます。

これは宮前区の桜で、平中学校区にどんな桜が咲いているか。実はこんなにたくさんあるんですよ。ほとんどが山桜とソメイヨシノですが、花というものはなかなか開花時期がみんな場所によって違いますので、これだけ写真を撮るのは結構かかったんです。ということで、何年か前の状態がこれです。近ごろ回ってみますと、もう何本か切られてしまっているんで、そういうところはやっぱりちょっと考えていかなければいかんかなという問題提起でございます。

ちょっと遠くの方はよく見えないかとは思いますが、後でごらんになってください。一応こういう活動もしております。参考資料としてお見せいたします。

直本委員長 それでは、世代間のほうもお願いします。

宮崎副委員長 先ほど大槻委員長からいろいろ御報告がありましたが、やはりそれぞれの地域社会とのかかわりというか、きずなを高めるために幼少時からの教育の必要性というものが大変私は重要ではないかなと思った次第です。

それと、皆さん一生懸命いろいろなところで世のため人のためというか、村づくり、まちづくりに精を出されているんですけれども、年に2回か3回ぐらいは積極的に情報発信をするような努力というか、何かそういう視点を持ってやっていかれると、また違う大きなフィードバックがあるのではないかなと感じました。

直本委員長 今、副委員長さんからそれぞれの部会についての補足説明をしていただきました。先ほどの桜の花を私も見ておまして、やはり環境というのはいいところを認めて、それをもっともっと伸ばすということと同時に、そういうことも大切だなと。それと逆な問題のある点も、またそれと比較して、また見詰めて、どうしたらいいのかなと検討をすることも必要だといったようなことを感じながら聞かせていただきました。

残り時間が少ないのですが、まだちょっとお互いの部会で何だかよくわからないといったような感想をお持ちではないかなと思いますので、反対の部会についての御質問や自分の部会についての補足説明などありましたら二、三お願いしたいと思うんですけれども、いかがでしょうか。

大槻委員 環境人部会の地図ですが、今、黒板に張られているのを見ると、さっきお話もありましたが、赤い印の公園はやっぱり偏在しているのではないかなと。こういうものはもう少し、やはり均等というか、いろいろ広めていくということが宮前区としての課題としてあるのではないかなというので、ぜひそういうような点からも検討いただいたらどうだろうかと思います。

直本委員長 ありがとうございます。

その他、ほかの方でどうでしょうか。

平井委員 緑の公園のことで、公園管理運営協議会ができるような公園と、第四公園のような、そうではない公園とか、いろいろ公園があるということ。それから、今開発されていて、例えばマンションが建って、それでそこに川崎市は何分の1の緑化という制度なんだけれども、そこを少し広くしてもらうように呼びかけて公園をつくっていくとか、地域でも活動を皆さん多分していらっしゃると思うんですけれども、そういうふうな形に、宮前区を緑の宮前区にするためには、今ある公園ももちろん大事だし、新しく開発されているところにも緑を残していくというふうな、そういうところもやっぱり考えていくのが大事なのかなと思います。

直本委員長 貴重な御意見ありがとうございます。

環境人部会のほうからはどうでしょうか。何か世代間についての御質問とか御意見とかはございませんか。

山下委員 自分の世代間のほうでちょっと申し添えたいのですが、アンケートの結果が出ていますけれども、学校との連携ということでこのアンケート結果をもう少し深く掘り下げていく必要がある。そうすると、具体的にいろいろな事例が出てくるのではな

いかなという気がしますので、ぜひ検討をお願いしたいということです。

それと、実際には私なんかは社協にも加わっているわけですがけれども、土橋とけやき平、神木の社協で第二社協をつくっていて、今までその広報で福祉だとか介護だとか防災とかのテーマが出尽くしてしまっているんですね。最後に議論として出てきたのが、やはり世代間交流というか、学校への支援はみんなお互いにできないんだろうかというのが結局出てきたんです。

だから、それで今度、広報を4月1日に出すんですけれども、それには例えば我々のところは土橋小学校、平小学校、宮崎台小学校に訪問して、どういうシニアの支援が必要かとか、そういうものを取材してくるというようなことを言っていましたので、そうすると、全くこちらの部会と同じようなことが出てくるのではないか、あるいは、そういうことを参考にさせていただいてもいいのではないかなという気はします。

それともう1つ。この前、タウンニュースで、前の区民会議の委員だった久保さんが市民館で九九の暗算を広める会をつくって始めるとか何とかという記事が出ていましたので、その確認をもう1つ。市民館で2月の中旬にやるというふうに書いてありましたから、そういうものも参考に。そうすると具体的な活動が広げられていくのではないかなという気がします。

以上3点お願いします。

直本委員長 ありがとうございます。

今の学校のアンケートにつきましては本当にいいアンケート結果が出て、今までにない大変参考になるアンケート結果ではないかなと思っておりますので、これは大切にして、これを踏まえて議論をまた深めていきたいと思っておりますが。

また、きょうの時点では、まだ両部会とも具体的な課題を出してくるところまで至っておりませんので、本日の議論や説明を踏まえまして、次のときまでに具体的な形に結びつくような方向づけをそれぞれの部会で重ねていきたいと思っております。

そろそろ時間ですので、竹田参与、何かまだこの方向づけができておりませんが、それを踏まえて御意見ございましたらお願いいたします。

竹田参与 よろしいですか。ありがとうございます。発言の機会をいただいて。

まず、環境人部会のほうですがけれども、お話を聞かせていただきまして、宮前区の公園について、私が今仕事をさせていただく上で、多くの方々からいただいている意見として、新しく宮前区に住まわれる方が非常に多くいらっしゃるわけがございまして、公園を自分たちでバザーやフリーマーケット、野外講演会なんかをできる場になりたいという意見をいただくんですけれども、市側、区役所側には耳の痛い話になってしまうかもしれませんが、やっぱり公園はそういったことに勝手に使わないでくれ、

町会を通して要望を出して、それが通らないとそういうことはできないよみたいな話になって、実現することはまずないという部分がありますので、その点、やっぱりどこか1つの公園、大きな公園が宮前区にもございますので、モデルケースみたいなものをつくって、そこでどんどんとそういったことを展開していければ、それは1回だけではなく、こうやって常時区民会議の方々が中心となってやっていければおもしろいのではないかと考えております。

あと1つ。先ほど委員の方から非常によい御意見がございまして、宮前区も新しい住宅、宮前平周辺もどんどんと新しい大きなマンションとかができておりまして、あと鷺沼駅にも大きなマンションが今後できますけれども、大きなマンションでございまして、一応川崎市の条例上、公園を幾らかつくらなければいけないということが決まっておりますが、本当に狭い範囲でございまして、せっかく持っていた宮前区の緑の緑地や空き地がどんどんとマンションで塞がれて、公園もその規定上、小さなところしかできないという部分がありますので、その辺、やっぱり条例の法律の話になりますけれども、宮前区ならではの区民会議の方々を通して、もうちょっと会社さん、東急電鉄さんとか、そういったところの話になってしまいますけれども、それができれば宮前区民会議のすごい成果として、別のあり方として今後に残せていけるのかなと思います。

それから、地域・世代間交流部会についてです。これはちょっと話が環境人部会とかぶってしまう部分がございますけれども、高津区の区民会議の例を少し話させていただきます。

隣の高津区の区民会議はビオトープを各小学校でやっておりまして、各小学校にある池とかちょっとした緑地を改めて整備して、区民会議で話し合っただけで予算をとって改めて整備して、小さな昆虫やら植物やら保護をして学校教育に生かしていくということを、これは取り組みとして成果を上げておりまして、御存じの方も多いかもかもしれませんが、この間行われました川崎市とどろきアリーナの国際環境技術展で高津区もそれを全面的に宣伝して、多くの海外の方々、市民の方々に知っていただくということをやっておりますので、本当に地域・世代間交流を、学校を主体にしてどんどんと入り込んでいくことは必要だと思っております。

そのために、やっぱり川崎市の教育委員会の垣根を越えていかなければならず、私自身もいろいろと、そこの縦割り行政の中で入り込める部分、入り込めないところがあるというところを痛感しておりますので。ただ、そういった部分も宮前区としての学校教育を活用して、区民会議ということで区民の方々の声を上げて、連携をして、いろいろな世代間交流を環境の部分も含めてやって展開をしていければ、必ず成功していけると考えていますので、これはもう本当に区役所の方々にもお願いしたい部分ではございますけれども、区民の方々、区民会議の方々が主体となって、そうい

ったことが区民会議から発端でできれば、すごく私もうれしいことでもありますので、ぜひともその点お願いしたいと思います。

直本委員長 大変ありがとうございました。

本当に私たちがまだ知らないようなところについても御説明、御意見いただきましたので、こういったこともそれぞれの部会でまた参考にしながら、方向づけにさせていただきたいと思っております。

まだ意見を言いたい方も多々いらっしゃると思いますが、これから後につきましては、それぞれの部会で皆さん方の御意見を集約させていただければと思いますので、質疑・意見交換はここまでさせていただきたいと思います。

続きまして、3月20日にフォーラムを予定しております。そのフォーラムにつきまして、前回いろいろな意見が出ましたことを踏まえて、企画部会で案を検討させていただきました。現在、企画のおおよその筋ができて、それを踏まえ、参加者の募集とか具体的な運営、あるいは分担、そういったことの細かいことについて皆さん方と意見を交換したいと思っております。特に今回のフォーラムは地域の多くの方に参加していただいて、皆さん方にわかっていただこうという形で、従来にないフォーラム、こういった形で企画をしておりますので、4期の区民会議の委員の方が特に中心になって動いていただくといったようなことになるかと思っております。

では、このフォーラムにつきましては、どのような形で現在進行してきているのかといった内容につきまして、事務局及びカイトの岩下さんから説明をお願いしたいと思います。

岩下（カイト） 運営のお手伝いをさせていただいております株式会社カイトの岩下と申します。

それでは、資料の21ページをお開きください。お願いいたします。

現時点での計画書、きょうの資料としてそろえさせていただきましたので、簡単に概要を私から説明させていただきます。

今回のフォーラムは中間発表ということもありまして、今、委員長さんもおっしゃられたとおり、体験型、これまでの区民会議の成果ですとか活動の地域の現場を体験していただこうと。そこから今回のテーマである人づくり、世代交流について話し合いにつなげていこうということで、みやまえ探検！発見！ウォークラリーと区民会議フォーラムということで企画させていただきました。

大まかな全体の流れですが、10時から14時、午前中から午後までということで、大ざっぱに言いますと、午前中はウォークラリーということで、御参加いただいた方々、チームに分かれて午前中は区内の見学ポイントを見ながらそれぞれ2コースで、宮崎台駅から区役所、鷺沼駅から区役所の2コースで歩きながら体験していただくプログラム。午後は皆さん区役所に集まっておりますので、午前中の歩いてきた

コースや発見等を振り返るとともに、これからの宮前区、人づくり、世代交流について話していただくという流れになります。

1枚めくっていただきまして、22ページをごらんください。こちらに全体スケジュールの概要を示させていただきました。今申し上げたとおりですが、大ざっぱに言いますと、10時に各コースの集合場所に参加者に集まっていただきまして、ウォークラリーはそれぞれ大体2時間のコースを想定しております。先日、事務局と委員長と実際歩いてみましてコースを設定させていただいたものが、きょうの資料の一番最後につけさせていただきました。ちょっと簡単なクイズ等も入っているんですが、この問題等はまだ仮のもので今後変更等がありますが、一応このコース、このチェックポイントで運営しようということを決めております。

12時に区役所に着きましたら、2階に今ありますが、チームごとに宮前30周年のキャラクターと一緒に記念撮影をした後、昼食休憩になります。お昼はお弁当を持ってきたりいただくか、昼食代を持ってきてこの近くで御購入くださいということで御案内する予定です。それから、午後ですが、フォーラムに入る前に第2期の提案の成果でもありますみやまえカルタ、第3期の情報サポーターズの説明から宮前クイズ等もちょっと楽しんでいただいて、午後のフォーラムに入る予定です。午後のフォーラムは、1時間ぐらいでウォークラリー振り返りと今後の宮前区について語るという内容です。

雨天時ですが、②で22ページの下のほうに書いてございますが、雨天時の場合、ウォークラリーはちょっとできないような天気の場合は、11時に直接区役所に集合していただきまして、クイズ、かるた、それぞれ体験の後、宮前区の好きなどころですとか、こうなってほしいということから、フォーラム、体験を長めにということで、終了時間は同じ、開始時間をおくらせるという形で考えております。

それから、23ページは、先日の実際コースを歩いてみた結果によります各チェックポイントの運営時間の目安等も示させていただきました。それから、午後の体験プログラムは12時半から1時ということですね。フォーラムは先ほど言ったような流れで1時間程度を想定しております。

24ページ、次のページをごらんください。こちらは全体の流れの模式図というか、フロー図、簡単なものになります。各チェックポイントでは、こちらを見ていただきますと、宮崎台コースは宮崎コミュニティガーデンでコミュニティガーデンの活動を知っていただき、ハーブティーを体験する。それから、宮崎第四公園で公園体操ですとか太極拳、こちらは第2期の提案に関するものですが、こちらを体験して、それから区役所。鷺沼コースのほうは、ふれあい広場、フロントウオンの隣になりますが、こちらで第3期の成果でもあります坂道ウォークも紹介して、ポールウォーキングを体験していただく。それから、鷺沼北公園は第3期の「ぐるっと宮前」でも紹介してい

る眺望ポイント。ちょうど下見のときにかなり天気がよくて、スカイツリーとか東京タワーとかがかかなり見えましてね。そこを紹介させていただいて区役所に行くという流れで考えております。

各チェックポイントでそこに関連するかるたがありますので、そちらも紹介して、より宮前区を深く知っていただき、後のかるた体験にもつなげるというようなことで考えております。

続きまして、25ページはフォーラムの流れになります。晴れていてフォーラムができた場合は、各歩いている間、運営側のほうでカメラマンを各コース用意しまして、撮った写真をすぐ振り返って見ていただいて、参加者にこれは何をしているところとか、きょうどんな発見があったとか、発言しやすいような雰囲気をつくって語っていただきたいなと思っております。それから、後半、宮前区はどんなところが魅力なんだろうとか、住んでいてよかったと思うこと、では、これからどんな宮前区になってほしいんだろうとか、ウォークラリーの感想から、人づくりですとか世代交流につながるような発言にうまく持っていきたいなど。

それから、あともう1点ですが、みやまねカルタ、宮前クイズ等をやりますので、当日、参加者は最大6チームで想定していますが、一番成績優秀だったチームには表彰式も考えております。これは具体的には賞品がまだ決まっていない部分がありますが、カルタ実行委員からみやまねカルタを優勝チームの方々には提供いただけるというお話は決まっております。

続きまして、26、27ページをごらんください。こちらは、きょうこの後、皆さんで協議していただいて決めていきたい部分でもあるんですが、役割分担等になります。かなり人員が必要かと思われるものがあるかもしれませんが、兼任できる部分は兼任ということと、あと既に各チェックポイントで団体をお願いできて、いいですよという御了解をいただけた部分は委員の名前や過去の委員の名前等が既に入っている部分もございます。

きょう特に決めたいのは、まだあいている部分のチェックポイントの運営ですとか、区民会議委員もできれば各チームに1名ずつ入っていただいて、一緒に歩いていただく方も決めたいと思います。ぜひ体力に自信のある方、一緒に歩いてみたいよという方、最大6名、6班で考えていますので、できれば6名、ちょっと決めたいなと思っております。あとはフォーラムの司会役ですとか撮影、その辺ももしお心当たりがありましたら、きょうこの後、協議で決めていただきたいと思います。

続きまして、28、29ページはチラシになります。既に皆様のところ黄色い紙で現物もいつているかと思えます。これは配付をこれから積極的にしていきまして参加者を募集していきます。具体的には今週末、15日から受け付け開始ということで、こちらの枠では各コース20名ずつということで、こちら裏が申し込み用紙になっており

まして、皆さんのお知り合い等で興味を持たれそうな方、あと、今回世代交流というテーマもありますので、いろいろな世代の方に参加していただきたいと思っています。知り合いの方、楽しんでくれそうな方がいらっしゃいましたら、ぜひ直接一本釣りでどンドン声をかけて、申込書を出してということで声をかけていただければと思います。

あと、最後にA3の地図。こちらをまたごらんになっていただければと思います。私も今回歩かせていただいて、いろいろ寄り道もしながら見て、注意深くするとなかなかいろいろな見どころがありまして。ちょっとしたお地蔵さんがあってその石碑に昔はこんなところでしたよとあったり、何かすごく立派な家があったりですか、すごく楽しみながら私も歩くことができました。

ちょっと時間がかかっておりますが、説明は以上になります。

直本委員長 ありがとうございます。

今、御説明いただいたんですが、人員配置等は後にいたしまして、最初に、この区民会議フォーラムのウォークラリーに関連いたしましてまず、この日程、プログラムに関連しての御質問や御意見等がありましたら、先にそれをお願いしたいと思います。

賛成の意見を踏まえて、皆さん、賛成なら賛成ですと、これはちょっと詳しくしたほうがいいのではないんですかとといったような御意見もあるかと思っておりますので、どうぞ。

白井委員 宮崎台のコースなんですが、宮崎台を出発して3番目のところ。生活環境事業所のところまで行っていますよね。地図のほうですね。これはもうちょっと先に行くところと宮崎中学校ですよね。宮崎中学校の隣に青少年の家があるんですが、その青少年の家の入り口のところに武蔵野音頭の碑という大きい碑があります。それをごらんになると、宮前のことがすごくよくわかるので、ぜひそこを入れていただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

直本委員長 今ここでの回答は差し控えさせていただきたいと思っておりますので、一応そういった御意見があったということ踏まえて、変更その他が可能か、あるいは、踏まえて検討させていただくということで御了解していただきたいと思っております。

ほかの方で何か御意見、御質問等はございませんか。

平井委員 このポイントは先ほど情報発信のクイズとかとあったんですけども、その本の中からのものなんですか。クイズは1番から10番。それとは全然関係なくこのコースがつくられているということ。

直本委員長 コースそのものの前提としてはサポーターズがつくったものと坂道マップを前提にしてコースをつくって……。

平井委員 ポイントポイント。両方。それは入っているわけですね。

直本委員長 ポイントについては私たちが実際に見たポイントの状況も加えられております。

平井委員 はい。では、両方、第3期の坂道のところと、その情報発信の情報紙の中に書かれていることが入っているということですか。

直本委員長 どうぞ。ほかに御質問等。ここにいる方は皆さん係員として関与しなければいけないこととなりますので、わからない点等をどんどん質問していただいて明らかにしていきたいと思っております。

田浪委員 このクイズは結構おもしろいものが多かったんですけども、地図のところを書いてあるクイズですけども。これは引率した委員がクイズを出しながら行くということなんですか。クイズをどこで出して、提案して、どこで聞いて、その説明とかも引率の人がするということなんですか。

直本委員長 では、それはカイトさんから説明していただいて。

岩下（カイト） 今、最後についている地図に1番から10番ということで、それぞれ10問問題がついていますが、まず、あくまで現時点では、まだこれは仮のものです。特定の民間施設ですとか、問題に出すのはちょっとどうかなというものも現時点では入っております。なので、その内容についてはまだこれから調整しますということと、あと、答え方については今の時点では各班に回答用紙と問題を1枚ずつお配りして、班で歩きながら答えを発見しながら歩いていただく。その中でまた班同士でちょっと交流とかお話も進むようにということで想定をしております。

直本委員長 鷺沼と宮崎台コースで3グループずつつくる予定ということですよ。その3グループのグループで協力してクイズに答えてもらうといったような形ということでしょうか。

岩下（カイト） そうなります。

平井委員 各定員20名ということで3チームということはということは各班六、七人ということですか。各コース定員20名ですよ。

事務局 このチラシの募集ではそうですね。タイミングをずらして市政だよりの3月号では各コース、プラス10名ずつ募集しています。

平井委員 えっ。各コース10名。

事務局 今回チラシで20名ずつ募集いたしまして、3月号の市政だよりで10名ずつ募集しております。なので合計、各コース30名ずつ募集するということになります。

直本委員長 各コース最大30名という意味ですね。

平井委員 1班10名ということですか。

事務局 そうです。最大10名。

豊島委員 ここで質問していいかわからないんですけども、人員一覧。26ページですけども、私はそんなに真面目につくらなかったんですけども、冊子、坂道ウ

オーク紹介が鷺沼コースにはあるんですけども、なぜ宮崎台コースにはないんでしょうか。

岩下（カイト） 宮崎台コースのほうでは、書いてはいないんですが、駅の最初のスタートの時点で坂道ウォーキングの資料もお配りして簡単な紹介をする予定です。ただ、鷺沼コースのほうではチェックポイントの中でポールウォーキング体験もありますので、鷺沼コースのほうの方がより詳しい紹介になるという点はあるかなと思います。

平井委員 10名は参加者を集めて10名をつくるということですか。ワンチームを。

岩下（カイト） そうです。

平井委員 それは例えば3人とか4人が来たら、そういうふうにもとめて1つのチームをつくる。世代を考えて。つまり、3人で申し込みました、2人で申し込みました、4人で申し込みましたと来たところを上手にまとめるということですね。

事務局 お2人で申し込まれた方がばらばらになったりとかしてしまうようなことは、できるだけ避けたいと思うんですけども。

平井委員 もちろんそれはしてはいけないことだと思いますので。

事務局 その辺は配慮をしながら人数調整ができればというふうには考えております。

平井委員 もっとたくさんチームをつくったらいけないんですか。10人で1チームということですよね。だから、別に無理に10人にしなくてもいいのではないかなと思ったのですが。

岩下（カイト） 一応今の想定として、10人で3チームずつ確保すると合計60人ということで想定はしておるんですが、参加の状況を見てその辺は調整したいと思っております。ただ、前回のこの会議でも、余り人数が膨れ上がると今度は安全管理ですとか、それもあって、レクリエーション保険をかけて班分けを事前にしておくということで、申込書も連絡先等まで御記入をお願いしているんですが、応募の状況を見て多少枠をふやすことも検討したいと思いますが、安全管理等もできる、あと、御近所、住宅街を通る部分もありますので、一緒にぞろぞろ歩いて余り交通の面でも現時点では最大30人ぐらいが適当かなと考えているということです。

平井委員 私が言ったのは人数をふやせということではなくて、チームを、要するに10人1チームではなくて6人のチームがあったりとかという、そういう意味で私は言ったんです。

岩下（カイト） そうですね。その辺は応募状況によって柔軟に調整したいと思います。

直本委員長 そうすると、今の御意見は、人数は30人でもいいけれども、グループ分けをもうちょっと数を、グループの数を多くしてもいいかという趣旨でしょうか。それとも、参加希望者がたくさんいたら、もうちょっとふやしてもという御意見のほうでしょうか。

平井委員 私が言ったのは班の数であるけれども、参加者がたくさんになった場合はどう

したらいいかというのは、私が今、もっと私のイメージとしては誰でも参加できるんだなというふうに思っていたんですけども、これは定員20名ということだったので、ああ、少ないんだなと思ったんですね。まず第一。でも、そうしたら、別に10名募集しているから、合わせて30名になるということだったんですけども、10名はもう募集して……。これから。これからで10名で計30名。まあ、そこはわかりませんが。

そのときに10名で1つの問題をわいわいやるよりは、もう少し少ないほうがというふうに私は思ったものですから、例えばクイズをしたりするときにも話し合うときに、10名が1列になった1つの班でやるよりは少人数のほうがいいかなと思ったので、チームをと言っただけです。

直本委員長 グループの班編成については、3グループを4グループにするということ、まだ方向としては残されていると思います。ただ、人数をこれ以上、30名以上ということになると、多分收拾がつかなくなって難しいかなと思いますので、3班に分けるか、出席者が少ない場合も考えたりしているものですからね。出席者が余り多くなかったときもありますので、3班ないし4班という程度を限界として考えていくという形で進めさせていただきたいと思います。

佐々木委員 今回のチーム分けに絡んでなんですけれども、これはクイズを1チーム1枚配るようなことをおっしゃったんですが、逆に全員に配って、例えば10人なら10人でいいと思うんですけども、そのチームの中の合計点数で賞品を配ればいいんじゃないかと私は思いましたので、御検討願います。

直本委員長 これはグループに1枚というのは、多分グループでいろんな世代を1つのグループにしたいということで、子供も大人もお年寄りも1グループ。だから、その中で途中で話し合いをしてもらえればということが前提にあったと思うんです。

佐々木委員 趣旨はわかるんです。先ほどの通り、10名だと1チームが多分多いと思うんですね。現実的にクイズをやったときに、10名で話し合うことは多分余りなくて、一、二名の方がぱっぱと回答していく様子が何となく想像できますので、話し合うことは重要ですけども、私も10名で1枚の紙をみんなで話し合うというのは、ちょっと難しいかなと現実的には思います。

直本委員長 わかりました。

それでは、1人1枚のほうがいいのかということについては私も若干疑問がちょっと残りますので、それを踏まえて各グループで1枚の回答用紙にするか、あるいは、各グループの中で3人ぐらいずつのグループをつくって、それぞれ1枚ずつというふうにするかといったことについては検討させていただくということでよろしいでしょうか。

田浪委員 今回の関連してなんですけれども、一応班に1人ずつ引率がつくことになって

いるので、私はこれを見たときに、例えばその人が、では、ここでクイズですみたいにして、その班をまとめるというのはあれですけれども、そういうような役割をするのかなと思ったんですよ。それはもしも1人1人クイズを答えるような形にするのであれば、引率は何のためにつくのかなという。逆にそんな気もするんですけれども。引率の人が、でも、安全のためなのかもしれないですけれども、そこまで安全を1人の普通の私たちが責任が持てないような気もするので、みんながコミュニケーションをとるための1つの役ができればという形なのかなと、これは思ったんですが、どうなんでしょうか。

直本委員長 ありがとうございます。

それでは、そういったことを踏まえて、1人1枚というアンケートについては若干疑問が皆さん多いということで、各班で1枚ということについても若干あれかなという御意見もございますので、それを踏まえた上でどのようにするかということは検討させていただくことにしたいと思っておりますので、その点、御了解をお願いいたしたいと思っております。よろしいですね。

それ以外で何かございますか。

それでは、一応おおむね今、御提案いただいた内容につきましては、今後検討して訂正できる点については訂正するということを前提といたしまして、人員一覧というところを見ていただきたいと思います。

先ほど事務局から説明がありましたように、担当者のところでもう既に第3期の委員さん方の御協力を得なければいけないといったようなところについて、既にもう事務局のほうから御了解を得ていると。そういったところについては担当者のところにお名前が記載されております。そこにはないところについて、できればきょうここで可能であれば、ここをやりたい、ここをやりますよというふうな御意見をお聞きできれば大変ありがたいなと思っております。

まず、ここをやりますという方から先に名乗り出てくださいたいと思っております。

森山委員 私は比較的歩けると思っていますので引率を。鷺沼コースが自分なりに、地図を見ていた限り、迷子にならない自信があるようですので、鷺沼コースの引率で。

直本委員長 全員とりあえず可能なところに名乗っていただいて、足りないところをまた検討したいと思います。

佐々木委員 私は鷺沼駅前に住んでおりますので、比較的早く来られますので、鷺沼の受付を担当できます。

直本委員長 担当委員として受付ですね。佐々木委員ですね。

岩下(カイト) 鷺沼コースのスタートということですね。

佐々木委員 スタートです。

宮崎副委員長 鷺沼コースの担当委員を佐々木委員にお願いできればと思っているんです

けれども。私は宮崎台のほうの担当委員を仰せつかりますので。

直本委員長 もう仰せつかるそうですから、よろしくお願いします。宮崎台駅のほうのスタートの担当委員と受付を宮崎委員ですね。

もう既に大村委員、黒沢委員は入っておりますので。浦野委員も入っておりますので、その方を抜かしてお願いします。

平井委員 私は宮崎台ですので、宮崎台のほうで歩きます。

岩下（カイト） 引率で。

平井委員 引率をさせていただきます。

直本委員長 宮崎台の引率に平井委員ですね。

田浪委員 では、鷺沼の引率に田浪が入ります。

直本委員長 鷺沼にどなたですか。田浪委員ですね。

豊島委員 鷺沼の引率委員に豊島が入ります。

直本委員長 宮崎台のほうは平井さんだけ。では……。

岡委員 では、私は宮崎台のほう、足りないところを引率のほうをどこかに入ります。

直本委員長 岡委員が宮崎台の引率ですね。

芒崎委員 鷺沼の引率へ同行させていただきます。

直本委員長 できれば宮崎台のほうはだめですか。方向が違って来にくい。

芒崎委員 歩いて来られます。それでは宮崎台のほうに行きます。鷺沼をやめまして宮崎台を歩かせていただきます。

藤田委員 私のできることならどの部分でも結構です。

直本委員長 藤田委員はどの部分でもいいということですので、残ったところを全部お願いすると。

あと、どなたか、ここをやりますということ。

大槻委員 私は歩くのは自信がございませんので、フォーラムのほうの何かをやらせていただければと思います。

直本委員長 ありがとうございます。本部のほうで午後の部をお願いいたします。

済みませんけれども、鷺沼北公園で北公園のほうから見える景色の説明をどなたかなされる方はいないですか。上からですね。スカイツリーから東京タワーから、反対側に富士山とか、もういろいろな景色が見えるんですが。それを、あれがあれで、これがこれでという……。

あんちょこは準備するそうです。私たちも見て、あの建物はどこの何の建物だろうなんて、どうもよくわからないところがありますので、その辺はちゃんと調べていただくということで。よろしいですか。

森山委員 はい。

直本委員長 それでは、芒崎委員、済みません。鷺沼の引率のほうに入ってください

いですか。

芒崎委員 入っちゃっていいんですか。はい。

直本委員長 宮崎台が1人足りなくなるので、ちょっと。もう欠席裁判で、きょうお休みの方を。あっ、山下委員がいた。

山下委員 私も残ったもの何でもいいんですけれども、もし歩くんだったら宮崎台のほうはしょっちゅう通っているわけで、大体このポイントも知っていますし。

直本委員長 では、済みません。宮崎台のほうの引率に一応入っておいていただいてよろしいですか。

一応のおおよそのところはこれで進めさせていただきます。午前の部と午後の部につきまして、重複して午後の部につきまして若干お願いするような方も出ると思います。特にフォーラムのほうの挨拶とか審議報告は私がいたしますけれども、その後の司会進行、あと記録は事務局にやっていただく以外ないかなと思います。写真撮影も私の知人に依頼してありますということで、閉会は副委員長のどなたかということで、フォーラムの運営、裏方は全員ということになりますけれども、この司会進行をどなたかにお願いしたいということなんですが。

太田委員 では、私がやります。

直本委員長 それでは、太田委員、お願いいたします。

では、司会進行については、またどのようなことをどうするかということについては別途説明をさせていただくということで御協力をお願いいたします。

それでは、これでおおむね大きなところの役割分担は決まりましたので、残りのところについてはまた重複して役割をお願いすることになると思いますので、その点、具体化しましたら御協力のほどをお願いいたします。

これで役割は終わりますして、その後のこのウォークラリーの募集のことについての、何か御意見や、こんな表現はどうだとかと、ございましたらお願いしたいと思います。

平井委員 済みません、もう1つ。

午前中からウォークラリーをした人でフォーラムを、話し合いをするということですよ。それが例えば午前中で失礼しますということの、それは例えば申し込みは最後まで、この申し込みでは午前10時から14時まで全部参加できる方を募集するという形ですか。

直本委員長 一応前提としてはそういう形での呼びかけをします。ただ、当日になって体調が悪いとか何かで若干午後を失礼しますという方も出るかもしれないと。

平井委員 それはそうなんですけれども、基本、歩いて、フォーラムに参加しますという方を募集するというのでよろしいんですか。

直本委員長 全体、フォーラムまで、午後の部がお昼を挟んでかるたとかクイズ、それに

続いてそのままフォーラムに流れると。フォーラムというか、話し合いですよね。フォーラムは全体としてもフォーラムということですので、ウォークラリーも含めてフォーラムというふうな解釈なんです。ですから、そのフォーラムは、その部分だけフォーラムではなくて……。

平井委員 それは見ればわかるんですけども、それをもっとしっかりやらないと、探検！発見！ウォークラリーに参加したいなと思って午後のフォーラムまでということをしつかり、全部一緒にフォーラムだというふうな、わかるようなチラシをやらないと、ちょっと申しわけないんですが、私が見たら、これは午前のウォークラリー、あっ、みやまえ探検！発見！ウォークラリーに行こう、えっ、あとフォーラムがあるのという感じになってしまうので、ちょっとこのチラシをもう少し検討したほうがいいのではないかと。わかるんですけども、もう1つ、区民会議フォーラムのほうを上に出したほうがいいかなと思います。

我々はわかっているんですけども、参加者としては、まず上を見てしまいますので、もうちょっと区民会議のフォーラム、最後まで、この発見してからフォーラム、みんなで宮前区のことを話し合おうというところが欲しいなと私は思います。

田浪委員 それなんですけれども、ここに「大人も、子どもも、お年寄りも、みんな一緒に」ということは、ウォークラリーをみんなで歩くなら子供を連れて一緒に歩こうかなという方も、これを見ると多分参加しようかなと思うと思うんですね。その後、1時間子供を連れてフォーラムには、きっと出られないと思うんですよ。だから、もしもそこまで残ってもらいたいなら、例えば保育がありますとか、そういうことまで考えておかないと、なかなかいろいろな世代の人に集まってもらうのは難しいのかなと思ってしまうんですけども。

直本委員長 これに関連して、まだほかに御意見のある方はいらっしゃいますでしょうか。

実は、この午後の部につきましては、今、御意見があったようなことも実は企画部会でも意見が再三出まして、いろいろ検討をしているところなんです。このフォーラムという、午後の全体のウォークラリーを含めてフォーラムということなので、午後の部にフォーラムというふうな形を組むと午前だけでいいのかなとか、午後はかた苦しいからやめようかなといったような方も出てくるのではないかなといったような意見も既に出しておまして、ここを何とか、もうちょっと工夫する余地はないかということ実は出ているんです。そこについて何か、こんな形の表現をしたらここはいいんじゃないというふうな御提案とかがありましたら、ちょっとお聞かせ願えれば。

佐々木委員 意見ではなくて、これはもうでき上がっているのに、今、変えられますかね。現実的に。変えられるんですか。

直本委員長 まだ変えられます。大丈夫です。

佐々木委員 チラシ自体を。

直本委員長 募集内容自体に変更が無ければチラシも大丈夫です。

佐々木委員 もしそうでしたら、この第2部の表のフォーラムという言葉を変えれば、全体が区民会議フォーラムで、第1部がウォークラリーで第2部は何とかという、別な名称をつければ何か解決しそうな気がします。何とかです。

直本委員長 その何とかという第2部の、そこに持ってくる何とかという言葉をやっ
こう……。そうそうそう。そこに何か。

平井委員 第2部がフォーラムではなくて、全体がフォーラムなので。

直本委員長 だから、そこに何かいい言葉がね。人を引きつけるような言葉。何か思い浮
かぶ方がいたら、ぜひお願いしたいと思いますが。

平井委員 しゃべろう語ろう宮前区。

佐々木委員 では、済みません。第1部はウォークラリーですよ。第2部はトークラリ
ーでどうですか。

豊島委員 おもしろい。

直本委員長 大変おもしろいですね。やっぱりいろいろな意見を聞かないといい言葉が出
てこない。皆さんトークラリーで大賛成。では、その方向で。ウォークラリー、ト
ークラリーね。

平井委員 上も。

直本委員長 ああ、上も。タイトルをね。ウォークラリー、トークラリーですね。

ということで、何か非常にいい案が出ましたので、その方向で調整を進めていき
たいと思います。

田浪委員 先ほど言いましたけれども、やっぱり保育を考えてもらいたいような気がしま
すけれども、どうでしょうか。保育。同室でもいいんですけれども、保育者をつけ
る。子供連れの人も出られるようにということも、ちょっと検討していただければな
と思います。

直本委員長 済みません、今の御質問があったのは、子供さんというのが小学生よりかは
もっと小さいお子さんを連れてということでしょうね。

田浪委員 そうです。

直本委員長 幼稚園とか、そのぐらい歩けることは幼稚園生でも歩けるからということ
ですね。

それでは、これについては、ちょっとここで御回答というわけにいかないかと思
いますので、そういったことがもし前提として、参加者があった場合についてはどう
いうふうな検討をできるかということについては企画部会のほうに一任していただ
ければと思いますので、お願いいたします。

大村委員 今の件ですけれども、会議室の片隅にそういうコーナーをつくった例もあるんですよ。だからそれで大丈夫ですよ。

田浪委員 もちろんそれで全然十分だと私も想定としては思っているんですけれども、ここにいると保育もありますと書いていただけると、ああ、じゃあ子供連れでも残れるかなというふうに思えて参加しやすくなると思うんですね。ちょっと一言書くといいんじゃないかなと思います。お願いします。

直本委員長 わかりました。これもいずれすぐ直しますので、それも踏まえて検討させていただきます。

豊島委員 もう始まるまでに1カ月ちょっとしかないと思うんですけれども、もし定員に満たない場合は団体から動員というようなことは考えられるでしょうか。去年は団体から1名2名あったんですけれども、もしいない場合は。もう日程がないから。

直本委員長 今のところ、どういうふうな形で人を集めるかということについては決定しておりません。ですから、区民会議の委員の皆さんの所属している団体ですとか、知人ですとかという方に積極的にできれば呼びかけていただければと。それから、第3期の区民会議の委員も多く、このかるたですとか情報サポーターズとかといったところにかかわっていらっしゃって、ここの部分にもかかわりがあるものですから、そういった方々の御協力も得られればというふうには思っております。どうしても余りにも人数が少ない、これは事前に募集して保険をかけますので、事前に用紙で申し込んでいただくということになりますので、ある一定の時期を見て、どうしてもそれが問題だということが起きた場合については、また御相談させていただくということも踏まえておいていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

山下委員 大体こういう案件の募集というのは、大体すぐ埋まるのかどうかというのが問題なわけだね。いや、実を言うと、ウォーキングでグループがあるところでは20人から30人のグループを抱えているところがあるのね。そういうものを1チーム持ってきたら、もう全部埋まっちゃうわけですから。これがどの程度、どこの時点で申し込みを切って、あと補充するとか、そういうことを決めておいたら、案外そこまで考えなくても済むのではないかなという気はしますから。

平井委員 でも、これは区民会議のフォーラムとして、実際今年度はこういうことを試してみようということなんだから、人数が集まらなかったら集まらなかったということで、では、どういうフォーラムがいいんだということの今後の課題になるので、無理に動員して会をやる必要は私はないと思うので、頑張って広報をして、それがどのくらい区民会議がまだ周知されていないということの認識になるかもしれないし、ああ、こういう形なら少し参加者があったということで考えればいいんじゃないかなと思います。

直本委員長 今の御意見にありましたように、4期の委員さんが頑張って宣伝しながら、

できるだけ参加者を集めようという意気込みで進めていきたいと思います。

それでは、この企画の最後に、岩下さん、何か追加説明や補足説明がありましたらお願いします。

岩下（カイト） 先ほど役割分担が決まった方、決まっていない方、まだいらっしゃるかと思いますが、基本的には今後、企画部会と事務局で詳細を詰めさせていただきまして、当日は運営マニュアル等も作成する予定です。各担当の集合時間ですとか、そういったことがわかるように準備を進めさせていただきたいと思います。

それから、先ほど各コースの引率という話がありましたが、引率者としてその班の安全を責任を持つという、そこまで重い形というよりは、区民会議の委員さんも参加者と一緒に交流していただきたいということ、あと、班の中の自己紹介ですとか、その辺の管理ですとか、あと、当日、一応安全管理として本部の連絡先ですとか、もしけががあったときの病院のリストアップですとか、そういったものも運営マニュアルに入れる予定です。その運営マニュアルを持った方も各班に1名ずつ入っていただいて、もし何かあったときはその班についている委員の方が第一報で本部なり病院等なりに連絡を入れていただくとか、そういった形でちょっと考えておりますので、あと、皆さんどうかよろしく願いいたします。

直本委員長 ありがとうございます。

これでフォーラムのほうの大体の協議、検討を終わりにしまして、あと、フォーラムにつきましては、もう日にちも迫っておりますので、次のそれぞれの部会、その他でまた詳細については御説明を加えさせていただくという形にさせていただきたいと思います。

本日の審議内容は以上をもって終わりにしたいと思いますが、持田参与がお見えになっていらっしゃいますので、フォーラムのほうの話に移ってしまいましたけれども御助言等をいただけたら。最後になってしまいましたので、よろしく願いいたします。

持田参与 皆さんこんばんは。大変遅くなってまいりまして恐縮でございます。もう私から何かをとということもございません。ただ、今、お聞きさせていただいて、皆様方が本当に御熱心に御意見を話し合いをいただきながら、よりよいものをつくっていかうということで、今、このウォークラリーとトークラリーのお話がありました。いい形でテーマがまとまったのではないのかなと思っております。

そういう中で私もふと、先般ちょっと原稿を書くものがございまして、その中で自然というものと同時に年が少し、歳月が過ぎて、物事がどういうふうに見えるのかなと、そんな視点で、子供の目線と私が子供だったとき、それから大人の目線、この目線によって同じものを見ても全く違う見方ができるのかなというのを気がつきました。それは子供の目線というと、もう小さな小学生ですと地上から70センチ、80セン

ちぐらいのところが低学年ですと目線であったり、こういう子供さんもいられます。大人になると、もう1.5メートルぐらいのところが目線です。ですから、大人になって、非常にこの道が狭く見えたり、子供のころに歩いた道は子供のころはすごい広く見えたわけですね。それだけ目線がもう違うということと同時に、のみならず、道端の植物や昆虫、そういうものの見方というものが、子供の目線ですと本当に事細かな動きまでよくわかるような、そういう目線があるのかなと、ふと先般思ったところがあります。

ですから、今回の参加される方々が大人の方々、また、中学生とか子供さん、そこに少し入ることによって、後段の午後の部分でいろいろな宮前の再発見というものがまた出てくるのかなとも思っていますし、そういう中で再発見がさらに宮前の大きな進展につながっていけばな、また皆様方のいろいろ知恵をいただきながらということで、我々もまた勉強させていただければなと思っております。ありがとうございます。

直本委員長 大変ありがとうございました。子供と大人の目線ということで、これからも大事な観点だろうと思います。

それでは、本日の審議、全体会につきましては以上で終了いたします。皆さん、今後についても御協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、事務局、よろしくお願いいたします。

3 閉 会

司会（日下部） 直本委員長、長時間にわたりまして大変ありがとうございました。また、皆様方もきょうは大変熱心に御議論いただきましてありがとうございます。これだけの熱意をもってすれば、3月20日はきっとたくさんの方で、もしかしたらお断りするのが大変になるのではないかなと思ったりもしております。

きょうは長時間にわたりましてありがとうございました。

午後7時56分閉会